高取町

町の紹介

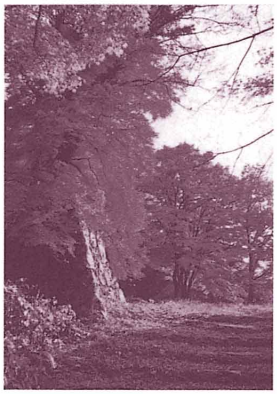
飛鳥文化の里と南北朝時代の動乱の歴史舞台となった吉野とのはざまに位置し、旧高取藩の城下町でもあり、西国第六番札所・壺阪寺の門前町でもある高取町は、ひっそり息づく歴史のまちです。

浄瑠璃「壺坂観音霊験記」お里・沢市の夫婦愛の物語でしられる壺阪寺、それに日本三大山城の一つと言われる高取城跡のいまも残る広大な石垣に往時の面影を偲ばせています。

明治以降は、大和売薬の拠点として、製薬と売薬がともに大きく発展をとげ、今日〝高取の薬〟として歴然と引き継がれ、高取町の主要産業の一つとなっています。

各名所

●高取城跡



高取城跡は、高取山（583・9m）山頂に築かれた典型的な山城。南北朝以来、越智・本多・植村各氏の居城でもあり、城内と郭内に分けられた城内は約10、000㎡、周囲約3㎞。郭内は約60、000㎡、周囲約30㎞という広大なもので山城としては日本一であると思われます。

●壺阪寺（南法華寺）

壺阪寺は西国六番の札所で、創建は文武天皇大宝3年（703）法相大徳弁基上人の開基で、正式には京都の清水寺の北法華寺に対し南法華寺といい、長谷寺とともに古くから観音霊場として栄えた名刹であります。36堂60余坊の大伽藍も、4回の火災で焼失し、現在の建物は文政10年（1827年）に建立されたものです。三重の塔は本堂と共に、国の重要文化財となっています。

●武家屋敷

もと高取藩の家老屋敷で、長屋門は県重要文化財となっており、江戸時代末期文政9年（1826年）のものです。旧藩主下屋敷のあった「ゴテンアト」は、長屋門正面の丘の上にあり、近くに数軒の武家屋敷など江戸時代の建物があります。

●土佐街道

高取は、江戸時代、2万5千石の植村氏の城下町として栄えました。

寛永17年（1640年）植村氏が藩主として入部後、山上の高取城では日常生活が何かと不便なため、藩主を初め家臣の屋敷は街道筋に移されました。そして次第に城下町が形成されていきました。

今も古い町家が残るこの一帯を貫く石畳の道が当時のメインストリートだった土佐街道です。実はこの石畳、阪神大震災の復旧工事で出できた路面電車の敷石を利用しているのです。街道沿いにはかつての町屋を改修した土佐街なみ集会所・夢創館をはじめ、壺阪寺への道を示す石標、武家屋敷、昔のたたずまいの残る壺阪漢方薬局などが並んでいます。この街道を歩いていると、まるで江戸時代に迷い込んでしまったようなやさしい空気につつまれます。

●子嶋寺

子嶋寺は天平宝字4年（760年）報恩法師が建立したと伝えられ、町内では壺阪寺に次ぐ古刹で、いっときは二十一坊の伽藍を誇ったとも伝えられます。子嶋曼荼羅の名で有名な「紺綾地金銀泥絵両界曼荼羅図」2幅は平安前期のもので国宝となっています。また山門は、高取城二の門を移築したもので、現存する数少ない高取城の遺構です。

●束明神古墳

束明神古墳は真弓岡丘陵の東南部、佐田の春日神社境内にあり、昭和59年発掘調査が行われ、直径約60mの範囲で造成し中央部に墳丘をつくった大規模な終末期古墳です。凝灰岩の切石を積上げた精巧な横口式石槨であることが判明、他に類例がありません。7世紀後半から末頃のものと推定され、草壁皇子（天武・持統両天皇の皇子）の墓である可能性を秘めています。

●ホームページアドレス
http：//www.town.takatori.nara.jp